

令和7年度 第1回鳴門市総合計画審議会 議事概要

【日時】令和7年9月4日（木） 午後1時30分～3時00分

【場所】市役所2階 大会議室

【出席者】＜審議会委員22名＞

市橋委員、乾委員、今津委員、鶴飼委員、恵美委員、大西委員、勘川委員、木原委員、木村委員、佐古委員、笹委員、堤委員、富田委員、中田委員、長野委員、西川委員、濱田委員、福山委員、藤村委員、益岡委員、松本英委員、村澤委員
＜鳴門市関係者24名＞

泉市長、谷副市長、阿部教育長、近藤企業局長、小泉政策監、大林危機管理監、橋本事業統括監兼企画総務部長、阿部市民生活部長、小椋環境共生部長、笠井健康福祉部長、黒濱こども未来創造部長、都市建設部長代理 小川まちづくり課長、小川産業振興部長、三居企業局次長、東條消防長、西上教育委員会事務局上席理事兼教育次長、米澤議会事務局長、事務局（戦略企画課5名、財政課2名）

【傍聴者・記者】0名

【次第】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議事
 - （1）総合計画実施計画（令和6年度実績）及び令和7年度行政評価について
 - （2）総合計画実施計画（R7－R9）について
- 5 閉会

【会議資料一覧】

- 資料① 第七次総合計画実施計画（令和6年度実績兼評価シートまとめ）
資料② 第七次鳴門市総合計画実施計画（R7－R9）
資料③ 鳴門市総合計画審議会委員名簿
資料④ 鳴門市附属機関設置条例
資料⑤ 総合計画策定に関する要綱

【会議経過】

- 1 開会後、市長挨拶
- 2 新審議会委員及び鳴門市関係者を司会より紹介
- 3 議事（1）について、事務局より資料①の説明、審議会委員質疑
- 4 議事（2）について、事務局より資料②の説明、審議会委員質疑
- 5 副市長挨拶の後、閉会

主な質疑等、議事の概要は以下のとおり。

◆議事（１）総合計画実施計画（令和６年度実績）及び令和７年度行政評価について

【委員】

時代の流れによって、結婚観や家族観が変わっていくので、少子化に伴う人口減少については、先が見通せない状況である。

→黒濱こども未来創造部長

各個人のさまざまな生き方が尊重される時代になっている。本市としては、子どもを産みたいという方をサポートできるように、初産年齢と出生数や、初婚と初産の関係など多角的なデータを分析しながら、施策を推進していきたい。

【委員】

公民館の利用人数が増加していることは、非常にいいこと。公民館は、地域の様々な日常に関係し、人間同士の交流を深める場所であるので、今後とも充実した公民館運営を希望する。

→西上教育委員会事務局上席理事兼教育次長

公民館の利用人数については、おおむねコロナ禍前の人数に戻ってきつつあるが、目標数値には届いていない状況なので、ニーズに応じた講座を開くなど、市民の皆さんが利用しやすい場となるよう努めていきたい。

【委員】

儲かる農業でなければ後継者は育たないと思うので、農業の六次産業化について、引き続き、行政による施策推進を希望する。

→小川産業振興部長

農業支援パッケージの補助金事業や漁協への支援など、引き続き、一次産業の活性化に努めていきたい。

【委員】

地域コミュニティの活性化について、地域住民の積極的な交流を図ることは、大規模災害のときに、自助共助の観点から助け合いの原動力となる。自立したまちづくりを目指すよう、地域住民が仲良く暮らすことが大事である。

➡阿部市民生活部長

人口減少による自治会等への加入率の低さが課題となっているので、自治会等が主催するイベントを行政として支援するなど、加入促進について推進していきたい。

【委員】

- ・ 16ページの学校教育充実事業について、評価欄の目標と実績の数値において、整数と小数が混在しているので統一が必要だと考える。
- ・ 評価指標に対するA～D評価について、例えば小学生の国語だと、全国平均 67.7 点以上の目標に対し 64 点なので、9割程度達成しているにもかかわらず、D評価というのは厳しすぎるように感じる。他の事業では、達成割合に応じて、B 評価や C 評価をしているので、そういった評価であってもよいのではないか。

➡西上教育委員会事務局上席理事兼教育次長

- ・ 平均正答率について、全国では小数点第一位まで表記されているのに対し、本市では整数表記となっている。
- ・ 評価方法について、さまざまな議論があったが、目標が達成できていないという事実を捉えD評価とした。

【委員】

事業によって評価方法に差があるので、統一した評価基準が必要なのではないか。

➡吉川戦略企画課長（事務局）

4 ページに成果指標に対する評価区分の説明を掲載しているが、目標達成率 100%以上をA、70%を上回るものをB、50～70%のものをC、50%を下回るものをDとしている。今後、よりよい評価体制について行政評価部署とも連携しながら検討していく。

【委員】

46ページの環境保全推進事業について、成果指標を温室効果ガス排出量と定めているが、一般市民には実感しにくいものなので、具体的にそれがどのようなもので、どのように測定しているのかといったことを実施計画兼評価シートの中で説明するべきである。

➡小椋環境共生部長

国が温室効果ガスの削減量について数値目標を掲げていることから成果指標としている。電気使用量やガソリン・軽油などの燃料使用量、自動車使用量、ごみ廃棄物の焼却量といった本市が実施している事業の中で発生する二酸化炭素量を換算し、成果指標にしている。実施計画兼評価シート内での補足説明については今後検討していく。

【委員】

50ページの災害対策事業について、成果指標で防災訓練参加者数を設定しているが、参加者数だけを見て、この事業の評価をされているのか疑問がある。成果指標が複数あってもいいのではないか。

→大林危機管理監

危機管理局では、防災訓練のほかにも研修会などさまざまな事業を実施しているので、次回以降、成果指標の追加については検討していきたい。

【委員】

59ページの市民安全対策事業について、成果指標の「市内における交通死亡事故件数」の目標が0件に対し、実績が1件なので、B評価でもいいのではないか。

→阿部市民生活部長

昨年度に同様の評価を行った際に、令和5年度の実績2件に対し、C評価をつけたので、今年度についてもその評価方法を加味した形で、C評価とした。一方で、評価判断について、難しい部分があるので、今後、検討していきたい。

【委員】

69ページの地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業）について、成果指標を「要介護（要支援）認定率を20%以内にする」としているのに対し、6年度目標値を19%に設定しているがために、6年度実績が19.8%だったのでB評価としているが、成果指標の20%以内は達成しているのでA評価とすべきだと思う。現状のままだと、成果指標と年度目標の二重の目標設定となっているので、改める必要があるのではないか。

→笠井健康福祉部長

成果指標の「要介護（要支援）認定率を20%以内にする」というのは、総合計画以外の他の計画において設定されているもので、より厳しい目標値を掲げて事業を推進していくという思いで6年度目標値を19%に設定しているものであるが、少々分かりづらく設定となっているので、今後、検討していきたい。

◆議事（2）総合計画実施計画（R7－R9）について

【委員】

7ページの中学3年生応援給食費無償化事業に関連して、さまざまな家庭の事情から、給食を頼りにしている子どもが一定数いるので、今後も継続して給食費無償化を推進し

てほしい。また、給食のない長期休暇中における子どもたちへの食事のフォローは行政としてあるのかどうか、どのように考えているのか、聞かせてほしい。また、長期休暇中に、子どもたちが過ごす居場所があれば子育てをしていく上でありがたいと思うが、その点についてはどうか。

➡西上教育委員会事務局上席理事兼教育次長

次年度以降の給食費無償化の継続については、物価高騰といった社会情勢の変化も十分見極めながら総合的に判断していきたい。

➡黒濱こども未来創造部長

長期休暇中の子どもたちの居場所としては、放課後児童クラブがあるが、利用条件として、両親の就労の有無が関係し、一部の子どもは利用できない状況である。別の観点として、民間主導で実施する子ども食堂への補助金支援を行政として実施しており、各地区で子ども食堂の運営が活発化しているところである。このようにさまざまな角度から、子どもの居場所づくりを増やす取り組みを推進していきたいと考えている。

【委員】

- ・阿波踊り入場券について、たとえば、入場券の裏面に、市内観光施設で利用できる割引券や記念品進呈などの特典の記載があれば、阿波踊りのついでに他の観光施設も回ってもらえるかもしれないので、そのような工夫があればいいと思った。
- ・また、鳴門のお土産物などの特産品を鳴門うずしお大使の方に、羽田空港でPRしてもらうなど、特産品のPRに力を注ぐとともに、新しい商品開発についても取り組んでほしい。
- ・大道銀天街のように、若い方が中心となり、イベントを運営していくことで、地元を誇りに思う機会が生まれるので、ぜひ若い力を活用してほしい。

➡小川産業振興部長

- ・阿波踊り入場券の工夫という点については、実行委員会と情報共有させていただき、参考にしていきたいと考えている。
- ・県外での物産展出店や市長によるトップセールスなど、さまざまな機会をとらえて、本市の魅力をPRしていきたいと考えている。
- ・現在、大道商店街において、起業・創業の拠点となるインキュベーション施設設置の準備を進めているところである。若い世代の意欲を応援する場所を整備することで、本市の観光業や商工業の活性化を図っていきたい。

【委員】

- ・13ページの「なると第九」ブランド化推進事業について、鳴門「第九」を歌う会が

解散し、文化会館が新しく建て替わったときに、演奏会を開催するということを耳にしたが、その認識で間違いないか確認したい。また、文化会館はいつごろ完成するか聞きたい。

- ・ 14 ページの国際・国内交流事業について、今年度、リュネブルク市から合計 55 名の親善使節団が鳴門に来られる。鳴門市内で、使節団の方とお会いする機会があれば、ぜひ挨拶をしていただけると、使節団の方も喜ばれると思うので、お願いしたい。

➡阿部市民生活部長

- ・ 鳴門「第九」を歌う会の皆さんよりお話しを伺い、令和 9 年 6 月予定となっている文化会館の開館に向けて、多くの方に喜んでもらえるような演奏会になるように、協議を進めていくところである。
- ・ ドイツのリュネブルク市から、市長をはじめとする使節団が鳴門を訪問することとなっているので、村澤さまのお話しにもあるように、ぜひ市民の皆様からのお声がけをお願いしたい。

【委員】

- ・ 16 ページの公共交通対策事業について、地域バスの高島線の 1 年間の利用者はどのくらいか。
- ・ 全国的に路線バスの経営が厳しいことはわかっているが、高齢者にとっての移動手段は、バスがメインになるので、利用者が少なくても、ぜひともバス運行の継続を進めてほしい。
- ・ 新たな移動手段の導入について、令和 7 年度については具体的にどの地域に展開していく予定か。

➡橘本事業統括監兼企画総務部長

- ・ 現在、地域バスの高島線の 1 年間の利用者実績については手元がない。
- ・ 地域バスは、高齢者や運転免許証を返納された方の移動手段として欠かせないものという認識はあるが、一方で、多額の費用がかかる関係から、利用実態やニーズ等を総合的に勘案して、効率的・効果的な運用を図っていきたい。
- ・ 新たな移動手段の導入について、今後、エリアを拡大していきたいと考えているが、現時点で具体的な導入地域は検討段階にあり、お答えしかねる。

【委員】

- ・ 10 ページの学校教育充実事業について、将来的な学区制の撤廃により、鳴門市内の優秀な学生は鳴門市外へ流出し、そうではない学生が鳴門高校に集まるといったことが起こる可能性が考えられる。そこで、鳴門市内の優秀な学生が、鳴門高校へ進学したいと思うような魅力的な施策を市の方でも検討いただきたい。

- ・ 先日ニュースで四国新幹線について報道されていて、現状、どこに新幹線の駅が設置されるかは未定だが、駅の誘致に向けて、前向きに検討を進めてほしい。

→西上教育委員会事務局上席理事兼教育次長

今年度より、鳴門教育大学と鳴門高校が連携し、鳴門高校において、教員を目指す学生を対象に、教職特別講座のエデュケーションプログラムを開始しており、本市としてはエデュケーションプログラムを受講している優秀な市内の生徒に対し、奨学金を給付するような制度を設けている。また、今年度より、市内在住の高校生に対し、英検受験料を全額補助する事業も開始した。今後も引き続き、鳴門市内の高校の魅力化・特色化について、さまざまな方面から支援をしていきたいと考えている。

→橋本事業統括監兼企画総務部長

四国新幹線の開通や駅の設置というのは、地域活性化の観点から、非常に魅力的であると考えている。大きなプロジェクトになるので、徳島県や近隣自治体との調整をしながら検討していきたい。

【委員】

- ・ 20ページの移住交流促進事業について、移住交流支援センターとは、移住希望者に対して、衣食住や就労のサポートをワンストップで行うセンターという理解でいいか。
- ・ 移住希望者が期間限定で鳴門市での生活を体験できる施設の設置や、移住者獲得に向けた民間活力の活用について、市としての考えを伺いたい。

→小川産業振興部長

現時点では、ハード整備の予定はないが、「おてつたび」と連携を行い、短期間のお試し移住という形で、働きながら鳴門に住んでいただいて、鳴門の魅力を体感してもらうといった事業を行っている。その中で実際に、移住に至った例もある。一方で、木村委員のおっしゃるように、行政だけでは限界があるので、「おてつたび」だけでなく、市内事業者との連携も積極的に図り、移住を推進していきたいと考えている。

【委員】

- ・ 25ページの消防・救急体制強化事業について、消防団活動では命を失うこともあるので、今後も、消防団への安全装備品の配備について積極的に進めてほしい。
- ・ 消火栓の設置位置が適正かどうかについて調査をしてほしい。また、不都合が生じた場合に、消火栓を移動させることが可能かどうか伺いたい。

→東條消防長

- ・ 消防団への安全装備品の配備については、今後も年次計画に基づき、適正に進めていきたいと考えている。

- ・消火栓については、現在、基準に沿って、設置しているところである。もし、設置位置についてご不明な点があった場合は、調査等を行うので、ご連絡をいただきたい。

【委員】

- ・25ページの消防・救急体制強化事業について、成果指標を「新規救急救命士数」に設定し、1～2名というわずかな人数を目標にしているが、こちらは救急救命士の資格取得が難しいから、この人数設定なのか。
- ・現在の消防隊員数と救急救命士取得者数はいくらか。

→東條消防長

- ・救急救命士の資格については、消防士が全員、取得しているわけではなく、計画的に資格取得のための研修所へ消防士を派遣しているところである。
- ・消防職員は現在、合計81名で、救急救命士の取得者は半数弱である。